

## トビウオ通信 (R3 第4号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

### 《令和3年度第1回日本海スルメイカ漁況予報》

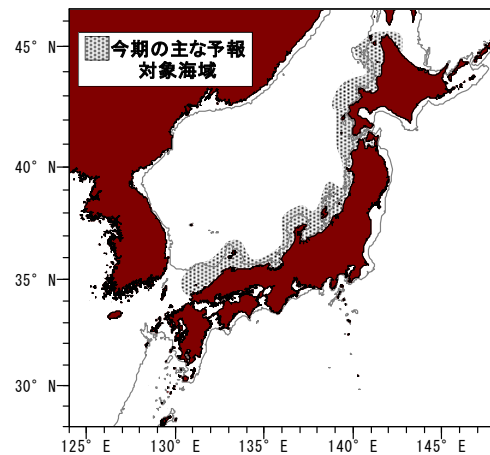
令和3年4月28日に国立研究開発法人水産研究・教育機構（水産資源研究所）から「2021年度第1回日本海スルメイカ長期漁況予報<sup>※1</sup>」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

#### 今後の見通し（令和3年5月～7月）のポイント

対象魚種：スルメイカ  
対象海域：日本海沿岸域  
対象漁業：主にいか釣り漁業  
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：前年並みで近年平均を上回る。
- (2) 漁期・漁場：主な漁場は本州北部日本海以北で、漁期は近年同様。

\* 近年は最近5年間(平成28年～令和2年)



#### (1) 来遊量

令和2年10月に実施された日本海スルメイカ幼生分布調査では、スルメイカの幼生分布量は令和元年および過去5年（平成27年～令和元年）平均を上回る状況でした。また、令和3年4月に実施された漁期前調査（スルメイカ新規加入量調査）では、今期に漁獲が期待されるサイズのスルメイカの分布量は、前年（令和2年）を上回り、近年（平成28年～令和2年）平均を下回る状況でした。これらの調査結果は前年を上回るが、近年の中では来遊量が多かった前年以上の来遊があるとは考えにくいとため、今期（5月～7月）の来遊量は「前年並みで近年平均を上回る」と予測されています。

#### (2) 漁期・漁場

対馬暖流域における今後（4月中旬～6月）の表面水温および50m深水温は、平年よりも「かな

り高め」(平年は過去30年の平均値)で経過すると予測されています(2021年度第1回日本海海況予報<sup>※2</sup>、国立研究開発法人水産研究・教育機構、令和3年4月9日公表)。今後の海況に近年の資源状況等を加味すると、主な漁場は「本州北部日本海以北(石川県以北)」、漁期は「近年同様」と予測されています。

※1、2は以下の水産研究・教育機構のホームページからご覧いただけます。

※1：<https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2021/20210428/20210428press.pdf>

※2：<https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2021/20210409/20210409press.pdf>

## 島根県沖でのスルメイカ漁況

主要3港(浜田、西郷、恵曇)<sup>※3</sup>における小型イカ釣(5トン以上30トン未満)によるスルメイカの月別の水揚動向を図1に示しました。令和3年の1月~3月までの水揚量は73トンで、低水準であった前年(16トン)を上回りましたが、近年(平成28年~令和2年)平均(128トン)を下回る漁況で経過しています(前年比459%、近年平均比57%)。

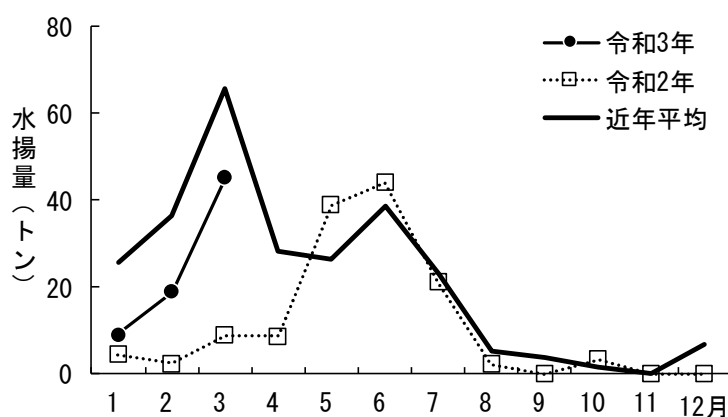


図1 主要3港におけるスルメイカの水揚動向

これは、近年スルメイカの産卵期に海水温等の海洋環境が変化し、産卵に適した海域が縮小する傾向が見受けられ、新規の加入量が少なくなったことが主な要因と考えられます。そのため、スルメイカ全体の資源量が減少し、島根県沖への来遊量も減少したと考えられます。ただし、スルメイカは1年魚であるため、スルメイカに適した環境条件が揃えば資源が回復する可能性もあり、今後の動向を注視していく必要があります。

※3：浜田は属地データ、西郷および恵曇は属人データを集計。